伊与殿機量物にて候ぞ。今年留め候い了んぬ。

御勘気ゆりぬ事、御歎候べからず候。当世日本国に子細有るべきの由之を存す。定めて勘文の如く候べきか。設い日蓮死生不定為りと雖も、妙法蓮花経の五字の流布は疑い無き者か。伝教大師は御本意の円宗を日本に弘めんと為す。但し定・慧は存生に之を弘め、円戒は死後に之を顕す。事相為る故に一重の大難之有るか。仏滅後二千二百二十余年、今に寿量品の仏と肝要の五字とは流布せず。当時果報を論ずれば、恐らくは伝教・天台にも超え、竜樹・天親にも勝れたるか。文理無くんば大慢豈之に過ぎんや。章安大師天台を褒めて云く、「天竺の大論尚其の類に非ず。真旦の人師何ぞ労わしく語るに及ばん。此れ誇耀に非ず。法相の然らしむるのみ」等云云。日蓮又復是の如し。竜樹・天親等尚其の類に非ず等云云。此れ誇耀に非ず。法相の然らしむるのみ。故に天台大師日蓮を指して云く、「後の五百歳遠く妙道に沾わん」等云云。伝教大師当世を恋いて云く、「末法太だ近きに有り」等云云。幸いなるかな、我が身「数々見擯出」の文に当ること。悦しきかな〳〵。諸人の御返事に之を申す、故に委細止め了んぬ。

七月六日　　日蓮　花押

土木殿御返事（富木常忍）